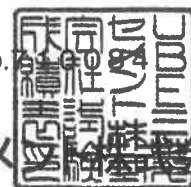


セメント試験成績表

No. 610084

2025 年 7 月度

UBE三菱セメント株式会社



種 類 品 質		普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高 炉 セ メ ン ト B 種 JIS R 5211				
		J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			
			平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)	
密 度 g/cm³		—	3.16✓	—	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—	
比表面積 cm²/g		2500以上	3190✓	74	—	3300以上	4520	80	—	3000以上	3870	85	—	
凝 結	水 量 %	—	28.1	—	—	—	30.3	—	—	—	29.5	—	—	
	始 発 h-min	60min以上	2-14✓	—	(1-50)	45min以上	1-33	—	(1-25)	60min以上	2-56	—	(2-35)	
	終 結 h-min	10h以下	3-17✓	—	4-00	10h以下	2-34	—	3-05	10h以下	4-14	—	5-30	
安定性		パット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm²	1 d	—	—	—	—	10.0以上	27.4	1.47	—	—	—	—	—	
	3 d	12.5以上	30.6✓	1.58	—	20.0以上	48.8	1.71	—	10.0以上	22.4	1.49	—	
	7 d	22.5以上	45.5✓	1.72	—	32.5以上	60.9	1.85	—	17.5以上	35.4	1.66	—	
	28 d	42.5以上	62.7✓	1.91	—	47.5以上	69.1	2.01	—	42.5以上	60.1	1.87	—	
水和熱 J/g	7 d	—	328	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	28 d	—	383	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
化学成分 %	酸化マグ ネシウム	5.0以下	1.11✓	—	1.61	5.0以下	1.01	—	1.63	6.0以下	3.27	—	3.63	
	三酸化 硫 黄	3.5以下	2.43✓	—	2.65	3.5以下	2.96	—	3.26	4.0以下	2.17	—	2.29	
	強 熱 減 量	5.0以下	2.48✓	—	2.79	5.0以下	1.00	—	1.18	5.0以下	1.67	—	2.12	
	全 アルカリ	0.75以下	0.48✓	—	0.59	0.75以下	0.43	—	0.54	—	—	—	—	
	塩化物 イオン	0.035以下	0.018✓	—	0.028	0.02以下	0.011	—	0.014	—	0.011	—	—	

- 備 考
- ポルトランドセメント（全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大の値）
 - ・普通ポルトランドセメント…………… 0.62%
 - ・早強ポルトランドセメント…………… 0.55%
 - 高炉セメント B 種
 - ・ベースセメントの全アルカリ…………… 0.48%
 - ・高炉スラグの分量…………… 40～45%
 - 1. 試験方法は JIS R 5201、JIS R 5202、JIS R 5203、JIS R 5204 による。
 - 2. 28d圧縮強さおよび28d水和熱は前月度の値を示す。

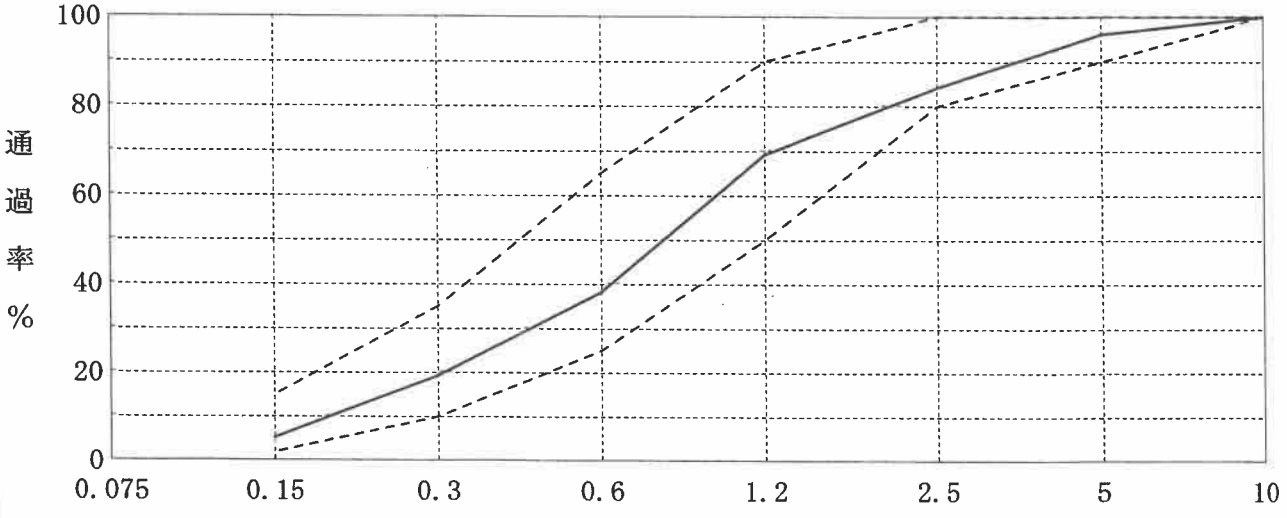


◎ お問い合わせその他のご連絡先
〒730-0031 広島市中区紙屋町 2-1-22
広島興銀ビル 8 F

UBE三菱セメント株式会社
中国支店
TEL 082-247-9613

試験規格		骨材のふるい分け試験表						検 印 欄			
JIS A 1102								主 任		試験係	
											
		試験月日		令和 7年 7月 4日							
試 料		産地品名		津山市加茂町知和							
		採取月日		令和 7年 7月 3日							
		採取場所		ダンプトラック上							
ふるい分け前の試料の質量				504.2 (g)		ふるい分け方法		手動			
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率				各 ふ る い に とどまる試料の 質量及び質量分率		各ふるいを 通過する ものの質量分率	連続するふるい の間にとどまる ものの質量分率	範 囲 上 限 下 限	参 考 $\frac{A\sqrt{d}}{300}$	
	縮 分 ① (g)	縮 分 ② (g)	縮 分 計 mr (g)	(%)	(g)	(%)	(%)	(%)	(%)		
10	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	100	0	100 - 100	—	
5	20.2	0.0	20.2	4	20.2	4	96	4	100 - 90	228	
2.5	60.1	0.0	60.1	12	80.3	16	84	12	100 - 80	161	
1.2	76.9	0.0	76.9	15	157.2	31	69	15	90 - 50	114	
0.6	75.4	81.0	156.4	31	313.6	62	38	31	65 - 25	81.1	
0.3	48.5	46.4	94.9	19	408.5	81	19	19	35 - 10	57.4	
0.15	36.2	35.0	71.2	14	479.7	95	5	14	15 - 2	40.6	
受皿	11.3	12.2	23.5	5	503.2	100	0				
合 計			503.2	100							
粗 粒 率			2.89	規 格 値	2.90±0.15		判 定	㊤			
連続するふるいの間にとどまるものの質量分率				規 格 値 (%)	45未満		判 定	㊤			
ふるい分け前後の試料質量差				0.2	規 格 値 (%)	1.0未満		判 定	㊤		

粒 度 曲 線



ふるいの公称目開き (mm)

備考：

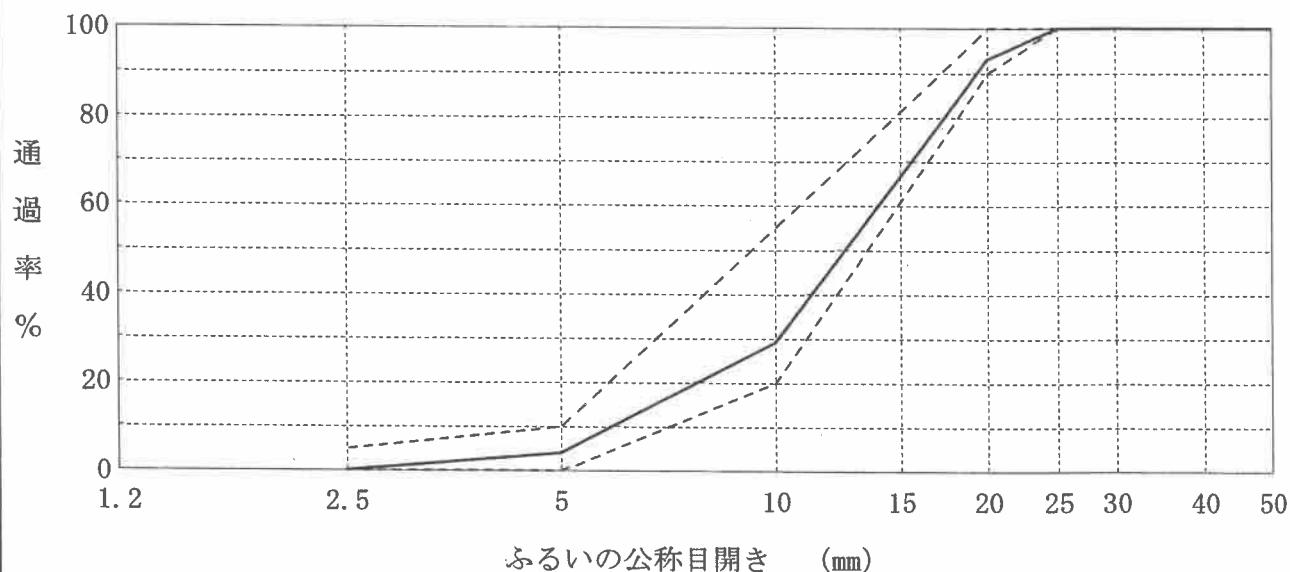
試験規格	骨材のふるい分け試験表	検 印 欄	
JIS A 1102		主 任	試験係
			

試験月日		令和 7年 7月 4日	
試 料	産地品名	津山市加茂町知和	
	採取月日	令和 7年 7月 3日	
	採取場所	ダンプトラック上	

ふるい分け前の試料の質量			5081.2 (g)		ふるい分け方法	手動
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいにとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいを通過 する質量分率	範囲 上限 下限
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)	(%)
50	0.0	0	0.0	0	100	100 - 100
40	0.0	0	0.0	0	100	100 - 100
30	0.0	0	0.0	0	100	100 - 100
25	0.0	0	0.0	0	100	100 - 100
20	354.8	7	354.8	7	93	100 - 90
15						- - -
10	3207.5	64	3562.3	71	29	55 - 20
5	1291.8	25	4854.1	96 ✓	4	10 - 0
2.5	223.1	4	5077.2	100	0	5 - 0
受皿	0.0	0	5077.2	100	0	
合 計			5077.2	100		

粗 粒 率	6.74	規 格 値	6.85±0.20	判 定	⊕
ふるい分け前後の試料質量差	0.1	規 格 値 (%)	1.0未満	判 定	⊕

粒 度 曲 線



備考：



JNLA Z80107JP



試 験 報 告 書

株式会社 ふじもと組 殿
岡山県津山市加茂町小渕29-1

試験品内容：[種 別] JIS A 5308:2024 附属書JA「レディーミストコンクリート用骨材」
JIS A 5005:2020「コンクリート用碎石及び砕砂」
粗骨材 コンクリート用碎石 2005 A (岩質：安山岩)
[大 き さ] 20～5mm
[採 取 日] 2024年11月29日
[産 地] 岡山県津山市加茂町知和
[採 取 場 所] ストックヤード
[製 造 業 者] (株)ふじもと組

試 験 項 目： 1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法) ✓

受領日(試料持込日)： 2024年 12月 12日

試 験 日： 2024年 12月 12日 ～ 2025年 6月 25日

試 験 結 果： 次頁以降のとおり

特 記 事 項： ー

試験実施場所：一般財団法人 日本品質保証機構 関西マテリアルテクノ試験所 試験室

- (注) 1. 上記試験品は、試験申込者により試験実施場所へ持ち込まれたものである。
2. 試験品内容等については、試験申込者提出の試験申込書に基づき表記したものである。
3. 試験結果は当該試験品に対しての結果であり、製品すべてを保証するものではありません。

試験の結果は、上記のとおりであることを報告します。

2025年 6月 27日

大阪府東大阪市水走3丁目8番19号
一般財団法人 日本品質保証機構
関西マテリアルテクノ試験所

所 長 井上 琢

技術管理者 那良 時義



この試験報告書の転載、一部分の複製をするときは、事前に当機構の承認を受けてください。
尚、報告書には改ざん防止策を施しています。

一般財団法人 日本品質保証機構



7/3

1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験（モルタルバー法）

(1)試験方法 JIS A 1146:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。

・粒度調整した代表試料の粒度分布：粒度区分A

・湿度95%以上を確保した手段：吸取紙による被覆及び容器底面の水張り

(2)使用したセメント ・種別：普通ポルトランドセメント

・販売会社名：一般社団法人 セメント協会

・酸化ナトリウム(Na_2O) 0.27 %・酸化カリウム(K_2O) 0.38 %・全アルカリ量(R_2O) 0.52 %

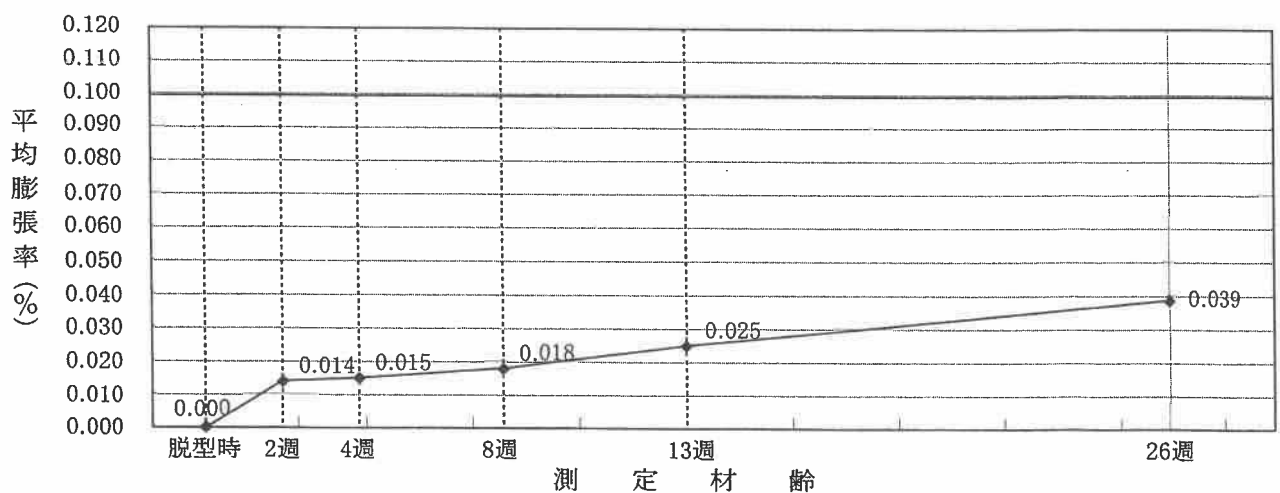
・水酸化ナトリウム水溶液を加えた後のセメントの全アルカリ量：1.2 %

(3)判定基準 骨材のアルカリシリカ反応性の判定は、供試体3本の平均膨張率が、測定材齢26週で0.100%未満の場合は、「無害」とし、0.100%以上の場合は「無害でない」とする。

〔備考〕 なお、測定材齢13週で0.050%以上の膨張を示した場合は、その時点で、「無害でない」としてもよい。測定材齢13週で0.050%未満のものは、その時点で、「無害」と判定してはならず、測定材齢26週まで試験を続けた後に判定しなければならない。

(4)試験結果

膨 張 率 (%)	測定材齢 試験No.	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週	判定
	1	—	0.015	0.015	0.018	0.025	0.040	
	2	—	0.014	0.016	0.019	0.026	0.039	
	3	—	0.013	0.014	0.017	0.023	0.038	
	平均	0.000	0.014	0.015	0.018	0.025	0.039	
外観観察		異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	無害 ✓





JNLA Z90119JP

試験番号 VE-24-0292追2

受付日 2024年 8月22日

報告日 2025年 4月 2日

骨材のアルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)報告書

大阪府吹田市東山町8番1号
一般財団法人日本建築総合試験所
試験研究センター
センター長
報告書発行責任者
材料試験室長
西山 篤史

依頼者	会社名	日本冶金工業株式会社 大江山製造所						
	所在地	京都府宮津市宇須津413						
試験実施期間		2024年9月25日 ~ 2025年3月26日						
試験材料	種類*	フェロニッケルスラグ FNS1.2(ナスサンド)						
	産地*	京都府宮津市宇須津413						
	採取場所*	日本冶金工業株式会社 大江山製造所						
	採取日*	2024年8月20日						
	採取者*	宮津海陸運輸株式会社 坂根 隼						
	工事名*							
	備考	2024年8月22日に当センターへ搬入された。						
セメントの全アルカリ		酸化カリウム(K_2O): 0.38%、酸化ナトリウム(Na_2O): 0.27%、全アルカリ(Na_2Oeq): 0.52%						
試験方法		「JIS A 1146:2022 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」とし、相対湿度 95%以上を確保した方法は、吸取紙による被覆とした。モルタルの配合は「JIS A 5011-2:2016 コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ骨材 6.4 アルカリシリカ反応性試験」によった。なお、試験は当センター 本部 コンクリート実験室にて行った。						
試験結果	供試体番号	膨張率 (%)					判定	
		2週	4週	8週	13週	26週		
	1	0.009	0.011	0.012	0.015	0.018	無 害	
	2	0.010	0.011	0.011	0.013	0.016		
	3	0.009	0.011	0.011	0.014	0.016		
	平均膨張率	0.009	0.011	0.011	0.014	0.017		
平均膨張率と材齢の関係を図-1に、試験終了時における供試体の状況を写真-1に示す。								
図-1 平均膨張率と材齢の関係 写真-1 供試体の状況(試験終了時)								
担 当	材料部 材料試験室	試験責任者	澁井 雄斗				試験担当者	大本 裕樹

*:試験依頼者の情報による。

以上

(株)きたむら

御中

2025年 7月度～2025年12月度 コンクリート用化学混和剤(JIS A 6204)試験結果報告書

種 類 高性能減水剤 (I 種)

商 品 名 シーカ ビスコクリート ACE 390 (100%)

1. コンクリートの試験結果

項 目		JIS A 6204による規定値	形式評価試験値	性能確認試験値	
フレッシュコンクリート	減 水 率 %	12 以上	15 ✓	15	
	ブリーディング量の比 %	— 以下	—	—	
	ブリーディング量の差 cm ³ /cm ³	— 以下	—	—	
	凝結時間の差 分	始 発	+90 以下	-30 ✓	-30
		終 結	+90 以下	-35 ✓	-50
	経時変化量	スランプ cm	— 以下	—	—
空気量 %		— 以内	—	—	
硬化コンクリート	圧縮強度比 %	材齢1日	— 以上	—	—
		材齢2日 (5℃)	— 以上	—	—
		材齢7日	115 以上	133 ✓	149
		材齢28日	110 以上	119 ✓	135
	長さ変化比 %	110 以下	94 ✓	—	
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	— 以上	—	—	

注記 1. 1m^3 当たりの化学混和剤の使用量 形式評価試験 7.00 kg/m^3 性能確認試験 7.00 kg/m^3

注記 2. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。ただし圧縮強度の性能確認試験は1年に1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

注記 3. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ホソリス ソリューションズ 株式会社技術開発センターで実施した試験結果である。

2. 塩化物イオン(Cl^-)量及び全アルカリ量

項 目	JIS A 6204 による規定値	形式評価試験値	性能確認試験		
			化学混和剤中の含有量	1m^3 当たりの化学 混和剤の使用量	試 験 値
塩化物イオン(Cl^-)量	0.02 kg/m^3 以下	0.00 kg/m^3	0.00 %	7.00 kg/m^3	0.00 kg/m^3
全 アル カ リ 量	0.30 kg/m^3 以下	✓ 0.03 kg/m^3	0.4 %	7.00 kg/m^3	0.03 kg/m^3

注記 1. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

注記 2. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ホソリス ソリューションズ 株式会社技術開発センターで実施した試験結果である。

3. その他の項目

項 目	規 格 値	試 験 値
密 度 (g/cm^3 , 20°C)	1.01 ~ 1.07	1.03 ✓

注記. この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

コンクリート中の塩素イオン含有量測定データ (積みブロック)

株式会社 き た む ら

7年 7 月 度

製 品 名 :

測定器具: ソルメイト 100



月 日	No.	コンクリート中の塩素 イオン含有量 (kg/m ³)	平均値 (kg/m ³)	規定値 (kg/m ³)	合否 判定
7/7	1	0.024	0.024	0.3以下	合
	2	0.028			
	3	0.020			
7/14	1	0.020	0.023	〃	合
	2	0.024			
	3	0.024			
7/22	1	0.020	0.022	〃	合
	2	0.026			
	3	0.020			
7/28	1	0.024	0.024	〃	合
	2	0.024			
	3	0.024			
	1				
	2				
	3				
備 考		測定器具は (財) 国土開発技術研究センター評価品			

アルカリ総量計算

令和7年7月度

(積みブロック)

株式会社きたむら

鳥取県鳥取市国府町岡益64-4番地

配合

単位量(kg/m ³)				
水	セメント	砕石	砕砂	混和剤
175	324	1081	876	4.86

ポルトランドセメント全アルカリ6ヶ月間の最大値 0.62 %

骨材中のNaClの量 0.0 %

混和剤中の全アルカリ量 0.4 %

コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _c R _c = (単位セメント量kg/m ³) × (セメント中の全アルカリ量Na ₂ O _{eq} : %/100)	R _c = 2.009
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _a R _a = (単位混和材量kg/m ³) × (混和材中の全アルカリ量: %/100)	R _a = 0.000
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _s R _s = (単位骨材量kg/m ³) × 0.53 × (骨材中のNaClの量: %/100)	R _s = 0.000
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _m R _m = (単位混和剤量kg/m ³) × (混和剤中の全アルカリ量: %/100)	R _m = 0.019
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _p R _p = (単位流動化剤量kg/m ³) × (流動化剤中の全アルカリ量: %/100)	R _p = 0.000
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³): R _t R _t = R _c + R _a + R _s + R _m + R _p	R _t = 2.03

コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策 3.0kg/m³以下2.03 Kg/m³ < 3.0Kg/m³ 判定 適

以上